

# 滋賀県立美術館の運営状況について

令和4(2022)年8月 滋賀県文化審議会

# 1 数字で見るリニューアルオープン後の美術館

## ■利用者数

- 昨年6月27日リニューアル後令和3年3月31日までの展覧会観覧者数（延べ）52,080人 来館者数(※1) 58,776人
- 1日あたりの展覧会観覧者数は休館前の約1.2倍に増加（223人→284人）
- 観覧者のうち中学生以下の割合は休館前の約2.6倍に増加（3.8%→9.7%）

再開館からの実績 (R3.6.27-R4.3.31)	展覧会観覧者数					教育・交流事業 (含地域実施分)	利用者数 計	来館者数 (※1)	県美メン バーズ 会員数
	常設展	企画展	計	1日平均	うち中学生以下				
	22,475	29,605	52,080	284 (※2)	9.7%	3,501	55,581	58,776	1,190
R3年度目標	—	—	70,000	—	—	45,000	115,000	—	2,000
H28年度実績	24,061	36,821	60,882	223 (※3)	3.8%	49,328	110,210	—	310 (※4)

※1 ロビー入口に設置の計測器による

※2 開館日数 183日

※3 開館日数 273日

※4 旧近代美術館友の会の会員数

## ■アンケート結果

- 県内からの来館が増加（57.2%→63.3%）、特に近隣の天津・湖南地域の割合が高くなっている
- 自家用車による来館が増加（55.9%→75.6%）し、路線バス利用が減少（38.5%→16.6%）
- 来館満足度が向上（大変良かった・良かった 77.9%→84.1%）

年齢

10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
3.6%	5.3%	10.2%	9.6%	16.3%	16.4%	19.4%	14.8%	4.4%
2.9%	2.9%	8.8%	13.2%	19.1%	19.1%	30.9%	2.9%	

交通手段

路線バス	自家用車	タクシー	徒歩 自転車	その他
16.6%	75.6%	0.4%	4.2%	3.2%
38.5%	55.9%	4.4%		

美術館の印象

大変良かった	良かった	普通	あまり良くない	良くない・その他
40.9%	43.2%	13.2%	1.8%	1.0%
33.8%	44.1%	10.3%	0.0%	11.7%

居住地

天津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	京都市	他京都	大阪	他近畿	中部	東京他
34.0%	20.1%	1.3%	4.6%	1.7%	1.3%	0.3%	10.9%	2.2%	6.1%	7.5%	6.4%	3.5%
45.6%	2.9%	5.9%	2.9%	0.0%	11.8%	10.3%	2.9%	8.8%	8.8%			

県内	県外
63.3%	36.6%
57.2%	42.6%

※斜字体は平成28年に開催した「つながる美・引き継ぐ心」展の際のアンケート結果

## 2 予 算

### ■当初予算額（単位：千円）

	平成28年度 (休館前最終年度)	令和 3 年度 (リニューアルオープン)	令和 4 年度	主な内訳
管理運営費	103,308	144,938	171,080	施設管理、空調費、修繕費ほか
美術品収集事業費	12,915	12,800	13,300	作品購入、作品修復、点検 ほか
展覧会開催事業費	62,277	87,615	96,496	常設展、企画展、次年度準備、展示監視 ほか
情報普及事業費	14,830	23,695	17,395	広報、美術教育、講座・ワークショップ開催 ほか
合 計	193,330	269,048	298,271	
(うち特定財源)	40,942	76,385 (※1)	55,959	観覧料収入、サポーター寄付金、助成金 (※2) ほか
(うち一般財源)	152,388	192,663	242,312	県費負担

※1 うち、展覧会観覧料収入 当初予算 18,690千円

※2 主な助成金

令和3年度 文化庁文化芸術創造拠点形成事業 等

令和4年度 一般財団法人地域創造 公立美術館共同巡回展開催助成事業、  
文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業 等

### 3 作品収集

貴重な作品を次代に継承し、多くの皆さんに鑑賞いただけるよう、当館の収集方針に基づき作品収集を行っており、2022年度は26件（購入3件、寄贈23件）の作品を収集した。

（寄贈には旧滋賀県立近代美術館友の会（R4.3解散）が買い上げて寄贈する作品4件を含む）

#### ■令和3年度収集作品

	作家名	タイトル（日本語）	制作年
購入	鵜飼結一朗	妖怪	2021
購入	鵜飼結一朗	妖怪	2021
購入	鵜飼結一朗	妖怪	2021
友の会寄贈	石黒健一	百年後に見る鳥と魚の夢	2021
友の会寄贈	岸竹堂	富士群鶴図	19世紀後半
友の会寄贈	中尾美園	不在／存在をゆききする	2021-22
友の会寄贈	山元春挙	晴天鶴之図	1916
寄贈	上野真知子	無題	2007
寄贈	大福唯桂子	野牡丹	昭和期
寄贈	伊庭靖子	Work 2011-4	2011
寄贈	伊庭靖子	Work 2011-5	2011
寄贈	伊庭靖子	Work 2011-6	2011
寄贈	内田文武	肌鏡	2011
寄贈	佐川晃司	半面性の樹塊 No.55	2007
寄贈	佐川晃司	半面性の樹塊 No.56	2007
寄贈	佐川晃司	半面性の樹塊 No.55 のドローイング	2007
寄贈	佐川晃司	半面性の樹塊 No.56 のドローイング	2007
寄贈	野口謙蔵	菜の花の風景	昭和期
寄贈	野口謙蔵	風景（林）	大正期
寄贈	山尾平	溶岩の桜島	1967
寄贈	山野千里	大鯰行列	2011
寄贈	山野千里	大鯰捕り放題	2011
寄贈	シュヴァーブ・トム	Metamorphosis: Climbing「2010/08/28」	2011
寄贈	シュヴァーブ・トム	Metamorphosis: Climbing「2011/03/05 #1」	2011
寄贈	シュヴァーブ・トム	Metamorphosis: Climbing「2011/06/08」	2011
寄贈	シュヴァーブ・トム	Metamorphosis: Climbing「2011/03/05 #2」	2011

#### ■令和4年度予定

【作品購入費予算3,800千円】

アール・ブリュット関連作品、さらに、他の作品についても継続的に収集を行い、コレクションを充実させる方針。

令和3年度末までの 作品収集状況（件数）	
部門	作品数
日本画・郷土	1,152
現代美術	518
アール・ブリュット関連	158
彫刻の道（屋外）	6
計	1,808

## 4 展覧会の開催

内装を全面改修した展示室で、令和3年度はリニューアルを記念した企画展を3回開催したほか、常設展についても展示ごとのテーマを設定し、コレクションを中心に展示を行った。

区分	名称	展示室	会期	開催日数	観覧者数	1日あたり観覧者数	目標観覧者数	期間中 来館者数
企画	Soft Territory かかわりのあわい	2・3	6月27日（日）－8月22日（日）	48日	9,132人	190人	12,000人	23,668人
常設	ひらけ！温故知新 －重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに－	1	6月27日（日）－8月22日（日）	48日	11,657人	243人		
企画	ボイスオーバー 回って遊ぶ声	1・2・3・ ギャラリー	9月18日（土）－11月14日（日）	50日	9,596人(※1)	192人	14,000人	15,231人
企画	第75回 滋賀県美術展覧会	3・ ギャラリー	12月9日（木）－12月22日（水）	10日	3,162人	316人		3,760人
常設	野口謙蔵 生誕120年展	1	12月7日（火）－2月20日（日）	53日	6,255人	118人		10,418人
常設	昔の滋賀の暮らし	2						
企画	人間の才能 生みだすことと生きること	3	1月22日（土）－(3月27日（日）)	56日	7,715人	138人	10,000人	10,679人
常設	名品選Ⅰ・Ⅱ	1・2	(3月12日（土）－)	14日	4,399人	314人		
計					51,916人			

※1 木の家専門店 谷口工務店フリーサンデー等による展示室1・2のみの観覧者数を含む

# ■企画展「Soft Territory かかわりのあわい」

会期：令和3年6月27日（日）—8月22日（日） 会場：展示室 2, 3

美術館が約4年間の休館中に美術館というテリトリーを離れて、県内のさまざまな地域に入り込み3回にわたって開催したアートスポットプロジェクトの集大成として、滋賀にゆかりのある12人の若手作家に作品制作を依頼し、展示を行った。「かかわりのあわい」で生まれるものを見つめ、かろやかでやわらかなテリトリーのあり方を探った。

□出展作家：石黒健一、井上唯、井上裕加里、河野愛、小宮太郎、武田梨沙、西川礼華、藤永覚耶、藤野裕美子、松延総司、薬師川千晴、度會保浩

□企画：荒井保洋（滋賀県立美術館 学芸員）

□イベント：

- ・ギャラリーツアー「ST展スペシャルナイト」 6月27日 53名参加
- ・アーティスト対談「県内共同アトリエ対談」 7月11日 20名参加

□関連展示：成安造形大学芸術学部地域実践領域による「MUSUBU地図」展示（ラボ）



# ■常設展「ひらけ！ 温故知新一重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりにー」

会期：令和3年月27日（日）ー8月22日（日） 会場：展示室 1

絵巻の宝庫である滋賀が誇る名品のひとつ《桑実寺縁起絵巻》（重要文化財、近江八幡市・桑實寺所蔵）を借用し、本作品を導き手として「パノラマの視点」「ストーリーを描く」「祈りの情景」の3つの観点から当館のコレクションを紹介した。

□出展作品：重要文化財《桑実寺縁起絵巻》近江八幡市・桑實寺所蔵／重要文化財《近江名所図》狩野派／《琵琶湖眺望図》島崎玉淵／《源氏物語図》滋賀県立琵琶湖文化館／《磨針峠》小倉遊亀／《或る御神像》小倉遊亀／《花三題》小倉遊亀（通期展示）など、あわせて 40 件

□企 画：大原由佳子（滋賀県立美術館 学芸員（当時））

□イベント

- ・スライドトーク「桑実寺縁起絵巻から見る県美コレクション」 7月4日 50名参加
- ・ギャラリートーク 7月17日 15名参加
- ・たいけんびじゅつかん「絵巻をつくろう」 7月25日 15名参加





# ■企画展「ボイスオーバー 回って遊ぶ声」

会期：令和3年9月18日（土）－11月14日（日） 会場：展示室1、2、3、ギャラ

当館のコレクション約1800件を中心に、選りすぐりの作品167件をジャンルや年代の別なく紹介する、回遊式の美術館全館を舞台にした展覧会。加えて3組のゲストアーティストによる新作を展示し、当館のコレクションや美術館の活動についての新たな視点を提示した。

□出展作品：重要文化財《不動明王二童子立像》玉蓮院所蔵（管理団体 延暦寺）、イケムラレイコ、アンディ・ウォーホル、小倉遊亀、河原温、草間彌生、アーシル・ゴーカー、澤田真一、志村ふくみ、白髪一雄、塔本シスコ、野口謙蔵、速水御舟、コンスタンティン・ブランクーシ、ジャクソン・ポロック、アンリ・マティス、横山大観、李禹煥、マーク・ロスコ ほか

□ゲストアーティスト：田村友一郎、中尾美園、ドットアーキテクト

□企画：渡辺亜由美（滋賀県立美術館 学芸員）

□イベント：

- ・アーティストトーク「ボイスオーバーのラジオ」 9月25日（オンラインのみの開催・再生回数598回(3/4時点)）
- ・ギャラリートーク 10月9日、10日、17日、19日、20日、24日 計84名参加
- ・たいけんびじゅつかん「ドットアーキテクトwithキッズ」 10月30日 26名参加
- ・中尾美園ワークショップ「遊亀さんの絵を描こう」 10月31日 10名参加
- ・「タムラのマリリン会議w」 11月13日 35名参加



中尾美園《不在／存在をゆききする》  
2021年（撮影：栗田猛）



田村友一郎《消えた沈黙》2021年  
（撮影：田村友一郎）



ドットアーキテクト《美術館の4年間の記録》  
2021年（撮影：栗田猛）



## ■常設展「野口謙蔵生誕120年展」

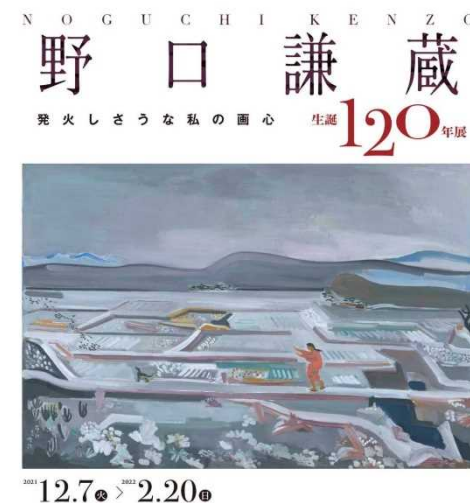
会期：令和3年12月7日（火）－令和4年2月20日（日） 会場：展示室 2

滋賀県に生まれ、画壇から評価されながらも、病に倒れ 43 歳の若さで亡くなるまで、終生近江の風景を愛し、描き続けた野口謙蔵の生誕120年の年に代表作を一挙公開。代表作《霜の朝》（1934、東京国立近代美術館、第15回帝展特選）、《水村雪後》（1938、京都国立近代美術館、第6 回東光会展出品作）も借用し、20年ぶりに県内で展示した。

□企 画：山口真有香（滋賀県立美術館 主任学芸員）

□イベント：

- ・講演会「野口謙蔵の蒲生野」（田中浩・山口真有香） 1 月 23 日（日）40名参加
- ・ギャラリートーク 12月18日（土）、2月19日（土）
- ・バスツアー「展覧会鑑賞とふるさと蒲生野を訪ねる!!」（東近江市観光協会主催）  
12月19日、2月13日 43名参加



## ■常設展「昔の滋賀の暮らし」

会期：令和3年12月7日（火）－令和 4 年2月20日（日） 会場：展示室 1

明治、大正、昭和期に制作された当館所蔵の絵画作品をもとに、今では珍しくなった滋賀の当時の暮らしを紹介。鑑賞のヒントとなるわかりやすいキャプションを掲示し、子どもと一緒に楽しめる内容とした。

□企 画：平田 健生（滋賀県立美術館 専門学芸員）



# ■企画展「人間の才能 生みだすことと生きること」

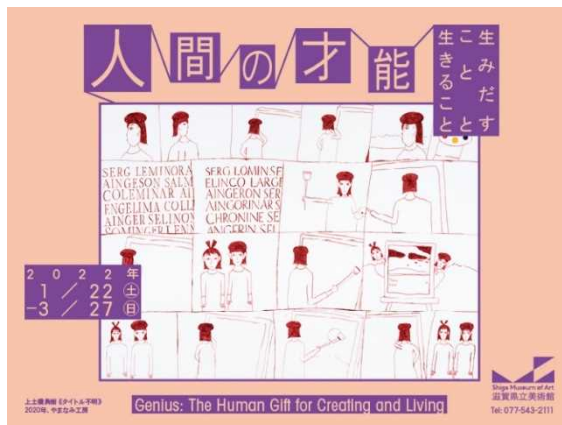
会期：令和4年1月22日（土）-3月27日（日） 会場：展示室 3

時代の流れにとらわれず、つくりたいという真摯な欲求に基づき、独自の方法論で生み出された作品を紹介。「生みだすこと」と「生きること」が一体となっているような人たちの作品の中には、アール・ブリュットと呼ばれるものも、そうでないものもあり、本展はアール・ブリュットを相対的に捉えられる展示構成とすることで、アール・ブリュットという概念は今後も必要か、そもそもアートとは何か、そして人間にとって重要な才能であるつくるとは何かといった問いを、来場者とともに考える場となることをめざした。

□出展作家：井村ももか、鵜飼結一郎、岡崎莉望、小笹逸男、上土橋勇樹、喜舎場盛也、古久保憲満、小松和子、澤井玲衣子、澤田真一、アルトゥル・ジミエフスキ、富山健二、中原浩大、福村惣太夫、藤岡祐機、山崎孝、吉川敏明

□映像制作：Twelve Inc.

□企画：保坂健二郎（滋賀県立美術館 ディレクター（館長））



写真撮影：加藤駿介（NOTA & design）



写真撮影：加藤駿介（NOTA & design）

## 5 教育・交流事業

## ■地域連携プログラム

遠隔地を含めて県内の多くの方に美術の楽しさを知っていただく機会を提供し、今後の来館にもつながるよう、県内各地の学校や施設に職員が出向き、講座やワークショップを行っている。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止や延期などの影響が出ている。

## プログラム実施実績

区 分	令和 3 年度 (3月31日まで)		休館中累積 (平成29～令和 2 年度)		実施場所・内容
	回数	参加者数	回数	参加者数	
①学校出前授業プログラム	32	1,601人	272	13,418人	小学校、中学校、特別支援学校等における鑑賞教育 や創作体験の出前授業
②地域出前プログラム	13	620人	290	14,730人	児童クラブ、保育所、集会施設等における講座やワーク ショップの開催
合 計	45	2,221人	596	30,935人	

## オンラインコンテンツの充実

コロナ禍において当館の情報や美術に親しんでいただけるよう、館ウェブサイトで「オンライン美術館」として動画コンテンツ（現在6本・順次追加予定）を展開しているほか、収蔵作品をモチーフとした紙工作「ワクワクワークス」（8作品）を公開している。



ワクワクワークス「動物すぼんぼ」



## ■美の糸ロートにどぼん！（ワークショップシリーズ）

美術館と県内の施設、団体、作家等が提供するアートやものづくりの楽しさを体験できるワークショッププログラム。休館中は年1回県内を巡回しフェスティバル形式で開催していたが、再開館に伴い、美術館を中心に公園内や隣接の図書館等とも連携し、週末を中心に通年開催するシリーズ形式で展開している。（令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年10月から開催）

### プログラム実施実績（令和3年10月から令和4年3月まで）



区 分	実施主体と内容	実施回数
美術館プログラム	美術館が企画・実施する展覧会やコレクション、季節に関連付けた創作体験プログラム 「油絵に挑戦」、「アーティストといっしょ!」、「懐かしのおもちゃをつくろう!」など	7回
連携プログラム	県内各地の作家や施設が提供し美術館内で実施するプログラム 「ストレッチ布でロゼットづくり」、「空きビンでキャンドルホルダーをつくろう♪」、「缶バッジ制作ワークショップ」など	10回
公園プログラム	びわこ文化公園管理事務所が実施する野外活動中心のプログラム 「瓦の拓本体験」、「しまっちとしげんとあそぼ!」など	4回
図書館プログラム	隣接する県立図書館が実施する読み聞かせや手遊びのプログラム 「おはなし会」	6回
合 計		27回



「はじめてアートであそぼ」  
（実施：滋賀県立美術館）



たいけんびじゅつかん「油絵に挑戦」  
（実施：滋賀県立美術館）



「空きビンでキャンドルホルダーをつくろう♪」  
（実施：ナガハマグラスフェス実行委員会）

## ■県美メンバーズ（年間パスポート会員）の運営

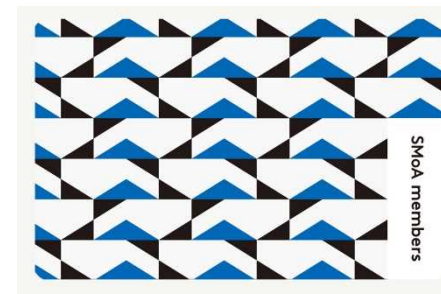
美術館の固定ファン、リピーターを拡大するために、年間パスポート会員制度をリニューアルオープンに合わせて導入し、会員向けに展覧会情報の提供などを行った。

□会員数： 1197人（うち 高校大学生54人、小中学生50人）（令和4年3月31日現在）

※約9割が滋賀県民（中でも美術館近隣の天津市南部や草津市在住者が多い）

□年会費： 大人2,400円、高校大学生1,600円、小中学生1,200円

□特典： メールニュース・ニュースレター送付、展覧会情報郵送、館内カフェ利用割引



## ■サポーター（寄付）制度

企業や県民から幅広く支援いただき、運営を充実していけるよう、寄付制度を設けている。

< 令和3年度実績 > 1,827,500円

### 【法人サポーター】

□無料観覧デー・サポーター〈100万円〉：(株)木の家専門店 谷口工務店

□次世代育成サポーター〈100万円〉：(株)木の家専門店 谷口工務店

□サポーター〈10万円〉：(株)クマヒラ大津営業所、帝産湖南交通(株)、  
中山倉庫(株)、滋賀県信用保証協会

### 【個人サポーター】

□ゴールドサポーター〈3万円〉 : 2名

□サポーター〈1万円〉 : 6名

### 木の家専門店 谷口工務店 フリーサンデー

無料観覧デー・サポーターの企業の名前を冠し、令和3年9月19日から毎週日曜日は「木の家専門店 谷口工務店フリーサンデー」のネーミングで、どなたでも常設展示を無料開放している。  
毎週300~600人程度の利用があり、図書館利用や公園に遊びに来たついでなど、特に、小さな子どもを連れた家族連れの様子が多く見られるのが特徴であり、気軽に美術館を体験するきっかけとなっている。





## ■情報発信・広報

4月1日の館名変更（滋賀県立近代美術館→滋賀県立美術館）と同時に、UMA/design farmのデザインによる新VIを導入し、6月のリニューアルオープンに向けウェブを中心にプロモーションを展開するとともに、開館後は展覧会情報などの発信に努めた。

□プロモーション：プレスリリース、ウェブサイト全面更新、オンライン美術館開設 など

□広告宣伝：JR瀬田駅構内・駅前広場・びわこ文化公園内の広告掲示、路線バス車内広告、JR駅貼り広告、WEB広告（Yahoo、YouTube、美術手帖）、びわ湖放送CM、FM京都CM など

### □パブリシティの成果

＜ウェブ媒体特集記事掲載＞

美術手帖、アートアジェンダ、インターネットミュージアム、Lmaga.jp、和楽web、TOKYO ART BEAT、新建築オンライン、アートログ、しがトコ、Discover Japan、ココカル、paperC、FASHION PRESS など

＜新聞特集記事掲載＞

朝日新聞（関西文化面での特集記事）、京都新聞（オープン特集記事）、中日新聞（オープン特集記事）、神戸新聞、読売新聞、毎日新聞、滋賀報知新聞 など

＜雑誌記事掲載＞

SAVVY、Leaf、Discover Japan、夏ぴあ関西版・東海版、カーサブルータス、まっぷる、オズマガジン、芸術新潮、美術の窓、湖国と文化、SUPUR、電車&ウオーク（JR西日本）、かけはし（しがぎん経済文化センター）、近江通信紙（成安造形大学）、瓜生通信（京都芸術大学）、新建築、夢けんせつ、地域創造レター、旅の手帖、美術屋・百兵衛、東海ウォーカー、美連協ニュース、びわこと など

＜テレビ・ラジオ＞

NHK大津放送局、びわ湖放送、FM京都、ZTV、NHK日曜美術館アートシーン特集、西川貴教のニシナナLIVE など



UMA/design farmによる新ロゴマーク



JR瀬田駅構内の掲示



プレス説明会

## 6 施設運営

### ■ 企業・大学・自治体等との連携強化

#### □ 大学との連携

##### < 龍谷大学 >

- ・社会学部 青木ゼミのフィールドワーク受け入れ（7/8、7/15、その他）
- ・入澤学長・知事・保坂ディレクターが学内広報誌で鼎談（7/30）

##### < 成安造形大学 >

- ・ラボで企画展の関連展示「MUSUBU地図」（6/27～8/22）
- ・保坂ディレクターが招聘教授に就任
- ・ワークショップ、トークを開催

##### < 滋賀県立大学 >

- ・環境科学部 山崎ゼミの授業受け入れ（6/9）
- ・ラボでの展示「竹の会所とタケトモミライ」（3/11～予定）

##### < 立命館大学 >

- ・立命館びわこ講座での山口主任学芸員講義（11月）
- ・「環境管理調査実習Ⅰ」地域課題の調査と解決策提案（12/2）

#### □ 自治体との連携

##### < 東近江市 >

- ・野口謙蔵展とあわせてゆかりの地を巡るバスツアー開催（12/19、2/13）

##### < 守山市 >

- ・文学・歴史講座で山口主任学芸員が講演

##### < 県・市町振興課 >

- ・「オンライン移住セミナー 滋賀ぐらし 万華鏡～夜の美術館編」の実施（7/11）

##### < 県・企画調整課 >

- ・びわこ文化公園都市大学連携ワークショップ
- ・死生懇話会のトークイベント（1/30、コロナで延期）

##### < 県・文化芸術振興課 >

- ・「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト（展示やワークショップによる成果発表）
- ・文化芸術×共生社会フェスティバル「映画「地蔵とりびどー」野外上映会 & トーク」
- ・文化芸術×共生社会フェスティバル「共生社会に向けて文化芸術の未来を語ろう」トークをオンライン開催(2/5)

##### < 県教育委員会 >

- ・「滋賀の教師塾」で平田専門学芸員が講義（3/6,3/26）

##### < 県立膳所高等学校 >

- ・保坂ディレクターが美術に関する授業を実施（10/20）

#### □ 経済界との連携

- < 公益社団法人びわこビジターズビューロー > 保坂ディレクターが理事に就任、総会で講演（6/14）

- < 滋賀経済同友会 > 保坂ディレクターが秋季懇談例会で講演（9/3）

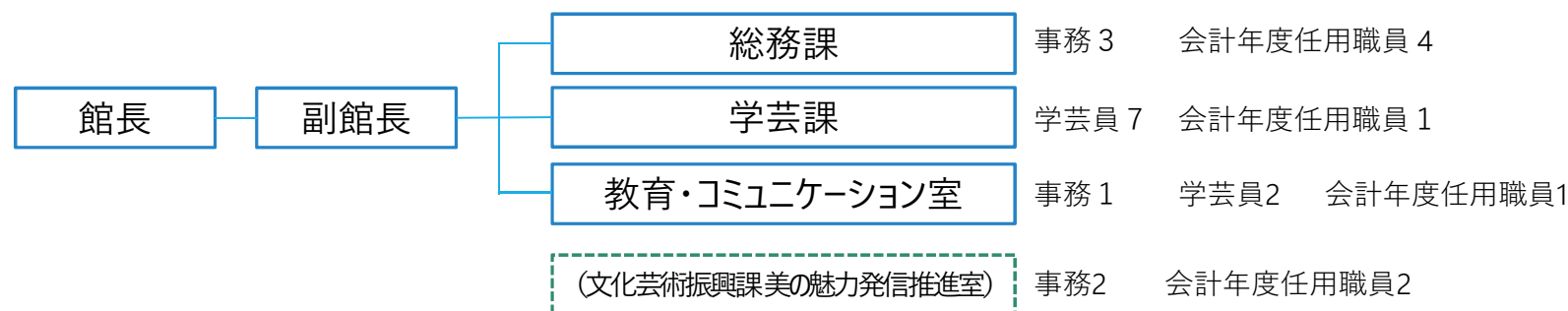
- < 株式会社 木の家専門店 谷口工務店 > 社内研修会で美術に関する講義（11/9、12/14、12/17、保坂ディレクター、平田専門学芸員）

- < 大津ロータリークラブ > 保坂ディレクターがスピーチ（5/18）

- < 帝産湖南交通株式会社 >

- ・びわこ文化公園内に「県立図書館・美術館前」のバス停を新設（6/26～）
- ・美術館ロビーにバス時刻表を表示するデジタルサイネージを設置（2月）

## ■組織体制



## ■施設管理

長期休館中の令和 2 ～ 3 年度にかけて老朽化対策やウェルカムゾーンの整備を中心とした改修工事を行ったところであるが、昭和59年（1984年）の開館から40年近くが経過しており、良好な展示保存環境の維持や安全性の確保のため、今後も継続的な施設・設備の改修を行う必要がある。

□令和3年度の主な施設整備（老朽化対策工事以外）

Wi-Fi整備工事（管理用・来館者用）

□令和4年～5年度に予定している長寿命化対策工事（主なもの）

エレベーター改修工事（既存不適格となっている作品輸送用大型エレベーターの更新）

空調改修工事（空調冷却水ポンプや配管の更新）

屋根・外壁工事（老朽化が進行している屋根や外壁の防水等対策工事）

### 文化庁 公開承認施設の更新

文化庁が国宝・重要文化財の展示公開にふさわしいと認定した施設である「公開承認施設」については、5年に1度更新が必要があるが、当館の重要文化財の展示や、施設改修・維持管理等の実績が認められ、令和3年12月に更新の認定を受けた。今後も滋賀の歴史文化遺産について積極的に展示していく予定である。

## 文化観光推進法に基づく文化観光拠点として認定

令和2年に施行された文化観光推進法に基づく、地域における文化観光を推進する拠点となる施設として、令和3年11月に文化庁・観光庁から全国41番目（公立美術館としては全国5館目）の認定を受けた。（計画年度 令和3年度から7年度）

拠点施設になると文化庁助成（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）の対象となり、令和4年度から館内での信楽焼やアール・ブリュットを紹介する常設コーナーの設置や、多言語化対応などを行う。

### ④1 滋賀県立美術館文化観光拠点計画

#### 計画作成・実施体制

文化観光拠点施設(設置者)： 滋賀県立美術館(滋賀県)  
文化観光推進事業者：  
(公社)びわこビクターズビューロー(地域連携DMO)、帝産湖南交通(株)、(株)国華荘、大津観光(株)、(株)紅鮎、塩野温泉

#### 計画期間

2021年度～2025年度（5年間）

#### 目標

- ・利用者数  
2016年度 110千人 → 2025年度 160千人
- ・外国人利用者数  
2021年度 1千人 → 2025年度 10千人  
※10年後(2030年度)には10千人(10倍)
- ・利用者の満足度  
2016年度 78.9%→2025年度 90% (+11.1%)
- ・周遊観光客の比率  
2021年度 数値把握 → 2025年度 2021年度比50%増

#### 文化観光拠点施設機能強化事業

##### <1.文化資源の魅力の増進>

- ・展覧会の充実と工房等を訪れる特別体験企画の実施
- ・県内各地でのアール・ブリュット作品および映像の展示

##### <2.文化についての理解促進>

- ・多言語対応、二次元コードによる作品情報提供の導入

##### <3.文化観光に関する利便の増進>

- ・バス停移設や増便、Wi-Fi・キャッシュレス環境の整備

##### <4.飲食、販売、宿泊等との連携の促進>

- ・作品を販売できるポップアップギャラリー（ミニギャラリー）整備
- ・地元事業者によるカフェ・ショップ運営

##### <5.国内外への宣伝>

- ・オンライン美術館の開設

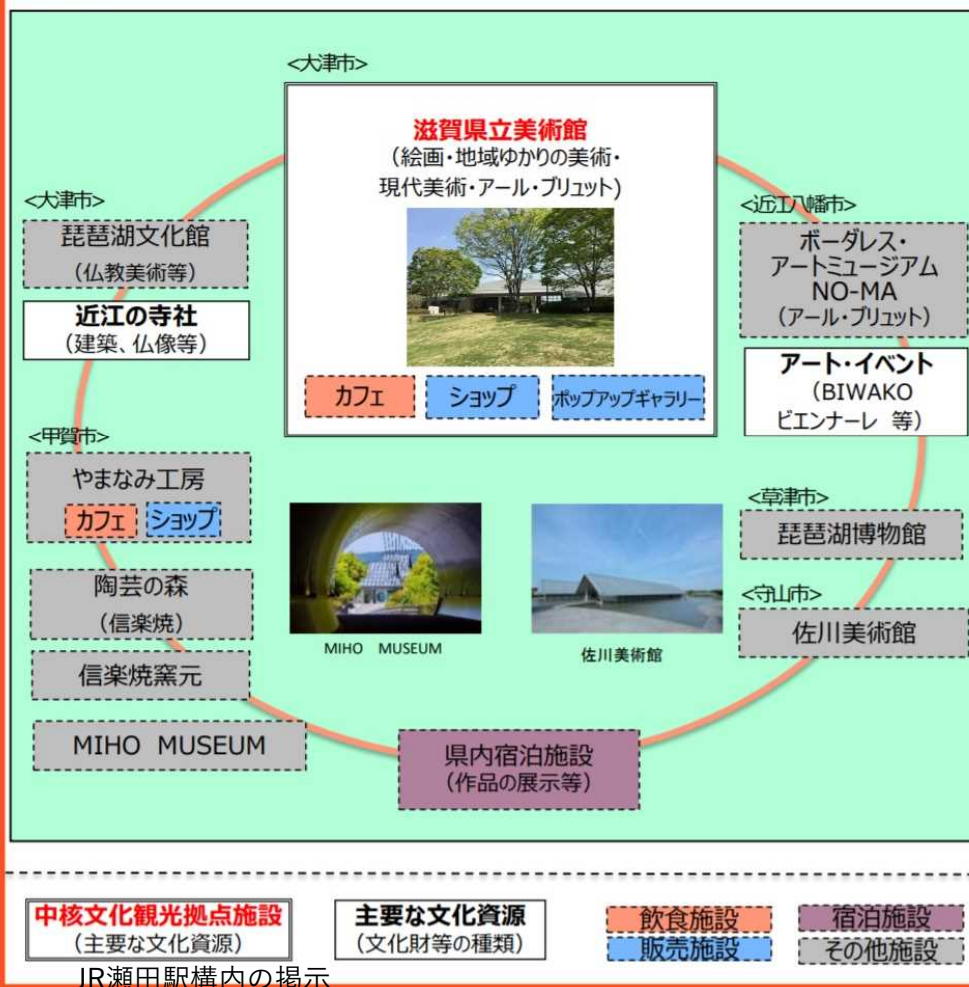
##### <6.施設又は設備の整備>

- ・美術館庭園のリノベーション

#### 文化観光推進事業費（5年間の計画ベース）

619百万円（うち、文化観光推進事業補助金184百万円）

#### 計画区域



JR瀬田駅構内の掲示